2020年3月期決算および長期経営構想説明会

2020年5月20日

宝ホールディングス株式会社

本日の内容

Ⅰ．2020年3月期決算 および 2021年3月期業績予想

（発表者：取締役　森　圭助）

1．2020年3月期　決算

2．2021年3月期　業績予想

Ⅱ．長期経営構想

（発表者：代表取締役社長　木村　睦）

1.長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」振り返り

2.宝グループ長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」

3.「宝グループ中期経営計画2022」

4.「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」

5.最後に

TaKaRa　2

（司会）

- 本日はお忙しい中、宝グループの2020年3月期の決算および長期経営構想説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

- 本日は記載の通りご説明します。

本日の内容

＜新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響の考え方＞

◆ **2021年3月期業績予想**
影響が2020年7月頃まで続くことを前提に策定。

◆ **長期経営構想等**
長期経営構想や中期経営計画には影響を及ぼさないことを前提に策定。

TaKaRa 3

- 説明に入る前に、新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響の考え方についてご説明します。
- 2021年3月期業績予想につきましては、影響が2020年7月頃まで続くことを前提として策定しています。
- また、長期経営構想や中期経営計画については影響を及ぼさないことを前提に策定しています。

Ⅰ．2020年3月期決算
および 2021年3月期業績予想

１．2020年3月期決算

【第Ⅰ部　発表者：取締役　森　圭助】

- 2020年3月期の決算と2021年3月期の業績予想についてご説明します。
- まずは2020年3月期の決算についてです。

2020年3月期　宝ホールディングス（連結）業績

連結損益計算書（売上高~営業利益）

（百万円）

	2020年3月期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	2/13予想比 増減	2/13予想比 率(%)	為替レート影響額 前期比	為替レート影響額 2/13予想比
宝酒造	153,141	683	+0.4	67	+0.0	－	－
宝酒造インターナショナルグループ	82,765	4,931	+6.3	546	+0.7	▲ 3,072	－
タカラバイオグループ	34,565	▲ 1,275	▲ 3.6	265	+0.8	▲ 787	－
その他	31,801	▲ 940	▲ 2.9	53	+0.2	－	－
調整額	▲ 21,082	349	－	258	－	－	－
売上高	281,191	3,748	+1.4	1,191	+0.4	▲ 3,852	－
売上原価	172,574	3,880	+2.3	1,074	+0.6		
売上総利益	108,617	▲ 132	▲ 0.1	117	+0.1		
運送費	11,000	837	+8.2	100	+0.9		
広告宣伝費	2,051	▲ 704	▲ 25.6	51	+2.6		
販売促進費	35,073	1,060	+3.1	▲ 326	▲ 0.9		
研究開発費	4,259	▲ 449	▲ 9.5	▲ 140	▲ 3.2		
管理費、その他	40,395	1,090	+2.8	▲ 104	▲ 0.3		
販売費及び一般管理費	92,781	1,835	+2.0	▲ 418	▲ 0.4		
宝酒造	4,175	▲ 1,772	▲ 29.8	327	+8.5		
宝酒造インターナショナルグループ	3,532	▲ 1,000	▲ 22.1	▲ 43	▲ 1.2		
タカラバイオグループ	6,274	811	+14.8	74	+1.2		
その他	2,018	64	+3.3	▲ 16	▲ 0.8		
調整額	▲ 164	▲ 69	－	194	－		
営業利益	15,836	▲ 1,967	▲ 11.1	536	+3.5		

TaKaRa　5

【宝ホールディングス（連結）】

連結損益計算書の売上高から営業利益までの実績についてご説明します。

＜前期比＞
- 連結売上高は前期比37億4,800万円増収の2,811億9,100万円となりました。
- 売上総利益は、原材料価格のアップや、為替変動による仕入コストの上昇などに伴い、前期比1億3,200万円減益の、1,086億1,700万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、運送費や販売促進費、管理費その他に含まれる人件費の増加により、販管費合計は前期に比べ18億3,500万円増加しました。
- この結果、営業利益は、前期比19億6,700万円減益の158億3,600万円となりました。

- 売上高については、タカラバイオグループが前期にキノコ事業および健康食品事業を事業譲渡した影響で減収となりましたが、宝酒造、宝酒造インターナショナルグループがともに増収となり、全体で増収となりました。
- 営業利益については、タカラバイオグループが増益となったものの、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループで、原価コストアップと費用の増加などにより、それぞれ減益となったことから、グループ全体でも減益となりました。

＜2月時点計画比＞
- 売上高は各セグメントともほぼ計画通りの着地となりました。
- 営業利益では、宝酒造、タカラバイオグループが計画を上回り、全体で計画を達成しました。

2020年3月期　宝ホールディングス（連結）業績

連結損益計算書（営業利益~親会社株主に帰属する当期純利益）

（百万円）

	2020年3月期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	2/13予想比 増減	2/13予想比 率(%)
営業利益	15,836	▲ 1,967	▲ 11.1	536	＋3.5
受取利息・配当金	911	110	＋13.9	111	＋13.9
その他営業外収益	547	▲ 113	▲ 17.2	▲ 52	▲ 8.8
営業外収益	1,458	▲ 2	▲ 0.2	58	＋4.2
支払利息	403	16	＋4.3	3	＋1.0
その他営業外費用	621	102	＋19.9	21	＋3.6
営業外費用	1,025	119	＋13.2	25	＋2.5
経常利益	16,269	▲ 2,089	▲ 11.4	569	＋3.6
特別利益	1,473	776	＋111.5	273	＋22.8
特別損失	2,099	701	＋50.2	599	＋40.0
税金等調整前当期純利益	15,643	▲ 2,014	▲ 11.4	243	＋1.6
法人税等	4,952	▲ 358	▲ 6.8	▲ 247	▲ 4.8
当期純利益	10,691	▲ 1,656	▲ 13.4	491	＋4.8
非支配株主に帰属する当期純利益	1,710	▲ 225	▲ 11.6	110	＋6.9
親会社株主に帰属する当期純利益	8,980	▲ 1,430	▲ 13.7	380	＋4.4

TaKaRa

6

- 連結損益計算書の営業利益以下、親会社株主に帰属する当期純利益までの実績です。

＜前期比＞

- 営業外収支は営業外の収益と費用のネットで、前期比で1億2,200万円利益にマイナスに働き、連結経常利益は前期比20億8,900万円減益の162億6,900万円となりました。
- 特別損益では、特別利益に投資有価証券売却益を計上する一方、特別損失に減損損失を計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純利益は、14億3,000万円減益の89億8,000万円となりました。

＜2月時点計画比＞

- 連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに、計画を上回りました。

2020年3月期　宝ホールディングス（連結）業績

連結貸借対照表

（百万円）

	2019年3月末	2020年3月末	増減
流動資産	175,011	168,820	▲ 6,191
現金及び預金	49,415	47,265	▲ 2,150
受取手形及び売掛金	59,780	61,017	1,237
有価証券	16,089	7,352	▲ 8,736
たな卸資産	46,035	48,976	2,941
その他	3,690	4,207	517
固定資産	112,094	115,061	2,966
有形固定資産	60,576	69,835	9,258
無形固定資産	19,914	18,700	▲ 1,214
のれん	12,400	11,750	▲ 650
その他	7,514	6,950	▲ 563
投資その他資産	31,603	26,525	▲ 5,077
投資有価証券	26,143	21,720	▲ 4,422
その他	5,459	4,804	▲ 655
資産合計	287,106	283,882	▲ 3,224

	2019年3月末	2020年3月末	増減
流動負債	57,822	55,466	▲ 2,355
支払手形及び買掛金	16,374	16,440	65
借入金・社債	9,960	9,787	▲ 173
その他	31,487	29,238	▲ 2,248
固定負債	49,489	47,086	▲ 2,402
借入金・社債	30,415	25,448	▲ 4,967
その他	19,073	21,637	2,564
負債合計	107,311	102,553	▲ 4,758
株主資本合計	139,064	142,563	3,499
資本金・資本剰余金	15,643	15,680	36
利益剰余金	124,788	128,564	3,776
自己株式	▲ 1,368	▲ 1,682	▲ 313
その他包括利益累計額	9,133	5,199	▲ 3,934
非支配株主持分	31,597	33,566	1,969
純資産合計	179,795	181,329	1,534

設備投資額、減価償却費、のれん償却費

	2020年3月期	前期比	
	実績	増減	率(%)
設備投資額（有形・無形）	14,195	＋3,524	＋33.0
減価償却費（有形・無形）	7,626	＋1,136	＋17.5
のれん償却費	847	▲ 18	▲ 2.1

TaKaRa

7

- 2020年3月期末の連結貸借対照表をご説明します。

- 資産合計は、前期末に比べ32億2,400万円減少の2,838億8,200万円となりました。
- 流動資産は、61億9,100万円減少し1,688億2,000万円となりました。
- このうち、現預金・有価証券はネットで108億8,700万円減少しました。譲渡性預金の減少などが主な要因です。
- 棚卸資産の増加29億4,100万円は、主に子会社における商品在庫の一時的な増加によるものです。

- 固定資産は29億6,600万円増加の1,150億6,100万円となりました。
- 有形固定資産は92億5,800万円の増加、無形固定資産は12億1,400万円の減少、投資その他の資産は50億7,700万円の減少となりました。
- 有形固定資産の増加は、宝酒造における缶チューハイの生産ラインの増設、タカラバイオのCDMO事業拡大のための新規施設の建設、北米の食材卸会社ミューチャルトレーディングでの物流倉庫拡張といった設備投資に関するものが主な要因です。

- 当期の設備投資額、減価償却費、およびのれん償却費は、下の表の通りです。
- 設備投資額は、今申し上げましたような成長投資により、前期に比べ35億2,400万円増加の141億9,500万円となりました。

- 負債合計は、前期末に比べ47億5,800万円減少の1,025億5,300万円となりました。
- 借入金・社債において、2020年5月償還予定の社債50億円を固定負債から流動負債に振り替えたほか、長期借入金50億円を返済しました。

- 純資産合計は、前期末に比べ15億3,400万円増加の1,813億2,900万円となりました。
- 利益剰余金は、親会社株主に帰属する当期純利益89億8,000万円に対し、前期の配当金が35億9,300万円、また自己株式の消却により16億8,600万円を資本剰余金に振り替えたことなどから、37億7,600万円の増加となりました。
- 自己株式については、当期に20億円の取得を行い、16億8,600万円を消却したことから、差引3億1,300万円の減少となりました。
- その他包括利益累計額の減少39億3,400万円は、国内株式市場全体の下落によるその他有価証券評価差額金の減少が主な要因です。

2020年3月期 宝ホールディングス（連結）業績

連結キャッシュ・フロー計算書

（百万円）

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	増減
営業キャッシュ・フロー	13,508	11,744	▲ 1,763
税金等調整前純利益	17,658	15,643	▲ 2,014
減価償却費等	8,052	9,354	1,301
運転資本の増減	▲ 7,033	▲ 8,160	▲ 1,126
法人税等の支払額	▲ 6,586	▲ 4,955	ー
その他	1,417	1,626	1,839
投資キャッシュ・フロー	▲ 9,213	▲ 3,690	5,522
有形・無形固定資産の取得	▲ 10,671	▲ 12,121	▲ 1,449
投資有価証券の売却による収入	33	1,636	1,602
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲ 53	350	404
その他	1,477	6,442	4,965
フリー・キャッシュフロー	4,295	9,817	5,522
財務キャッシュ・フロー	▲ 4,243	▲ 11,653	▲ 7,410
有利子負債の増減	▲ 394	▲ 5,072	▲ 4,677
自己株式の取得による支出	▲ 0	▲ 2,000	▲ 1,999
配当金の支払額	▲ 3,191	▲ 3,589	▲ 398
その他	▲ 657	▲ 991	▲ 334
現金及び現金同等物為替換算差額	▲ 812	▲ 439	373
現金及び現金同等物増減	▲ 760	▲ 4,039	▲ 3,278
現金及び現金同等物期首残高	49,341	48,580	▲ 760
現金及び現金同等物期末残高	48,580	44,541	▲ 4,039

TaKaRa

8

- 続いて連結キャッシュフロー計算書をご説明します。

- 営業キャッシュフローは117億4,400万円で、前期比で17億6,300万円減少しました。
- 減価償却費等は増加しましたが、税金等調整前当期純利益が減少したほか、棚卸資産の増加等により運転資本が減少しました。

- 投資キャッシュフローは、マイナス36億9,000万円で、前期比では55億2,200万円増加しました。
- 有形・無形固定資産の取得が増加した一方で、投資有価証券の売却による収入の増加と、余資運用の終了によるキャッシュインがありました。

- 財務キャッシュフローはマイナス116億5,300万円となりました。
- 長期借入金の返済による有利子負債の減少、自己株式の取得による支出、配当金の支払いなどがありました。
- 以上の結果、当期末の現金及び現金同等物残高は、前期末から40億3,900万円減少の445億4,100万円となりました。

2020年3月期　宝酒造　業績

損益計算書（売上高~営業利益）

（百万円）

	2020年3月期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	49,728	▲ 3,653	▲ 6.8
清酒	20,488	▲ 906	▲ 4.2
ソフトアルコール飲料	43,023	4,245	+10.9
その他酒類	6,405	▲ 77	▲ 1.2
本みりん	13,980	111	+0.8
その他調味料	10,330	616	+6.3
原料用アルコール等	9,183	347	+3.9
売上高	153,141	683	+0.4
売上原価	92,822	1,380	+1.5
売上総利益	60,318	▲ 697	▲ 1.1
運送費	8,142	529	+7.0
広告宣伝費	1,882	▲ 512	▲ 21.4
販売促進費	33,844	1,186	+3.6
研究開発費	382	14	+4.0
管理費、その他	11,890	▲ 141	▲ 1.2
販売費及び一般管理費	56,142	1,075	+2.0
営業利益	4,175	▲ 1,772	▲ 29.8

売上総利益増減　内訳

		前期増減	数量差	単価差
売上総利益 計		▲697	▲95	▲602
主な内訳	焼酎	▲1,497	▲1,428	▲69
	清酒	▲547	▲361	▲183
	ソフトアルコール飲料	+1,550	+1,499	+50
	本みりん	▲48	+72	▲120
	（参考）原価コストダウン	▲867	※上記数量差および単価差に含む	

TaKaRa　9

【宝酒造】

＜前期比＞

- 売上高は、6億8,300万円増収の1,531億4,100万円となりました。
- カテゴリー別では、焼酎、清酒、その他酒類が減収となりましたが、ソフトアルコール飲料、本みりん、その他調味料、原料用アルコール等の増収がこれを上回り、全体では増収を確保しました。
- 売上総利益は、売上原価が原材料のコストアップや製造費用の増加などにより13億8,000万円増加したことから、6億9,700万円減益の603億1,800万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、前期に比べ10億7,500万円増加の561億4,200万円となりました。広告宣伝費が減少しましたが、運送費、販売促進費などが増加しました。
- その結果、営業利益は、前期に比べ17億7,200万円の減益となる41億7,500万円となりました。

2020年3月期　宝酒造インターナショナルグループ　業績

損益計算書（売上高~営業利益）

（百万円）

	2020年3月期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	為替レート影響額 前期比	為替レート影響額 2/13予想比
海外酒類	11,365	607	+5.6	▲ 308	－
海外日本食材卸	73,371	4,417	+6.4	▲ 2,785	－
その他	204	142	+226.8	－	－
連結消去	▲ 2,175	▲ 235	－	22	－
売上高	82,765	4,931	+6.3	▲ 3,072	－
売上原価	58,882	4,058	+7.4		
売上総利益	23,883	872	+3.8		
運送費	2,656	379	+16.7		
広告宣伝費	84	▲ 26	▲ 23.8		
販売促進費	756	21	+3.0		
管理費、その他	16,854	1,497	+9.8		
販売費及び一般管理費	20,351	1,872	+10.1		
海外酒類	2,339	356	+18.0		
海外日本食材卸	2,735	▲ 1,186	▲ 30.2		
その他	▲ 853	82	－		
連結消去	▲ 689	▲ 252	－		
営業利益	3,532	▲ 1,000	▲ 22.1		

TaKaRa　10

【宝酒造インターナショナルグループ】

＜前期比＞

- 売上高は、海外酒類が6億700万円、海外日本食材卸が44億1,700万円の増収となり、全体では49億3,100万円増収の827億6,500万円となりました。
- 為替の影響30億7,200万円を除く前期比は110.2%となり、引き続き好調に推移しています。
- 売上原価は、為替変動による仕入コスト上昇の影響を受け、前期比40億5,800万円増加の588億8,200万円となり、売上総利益は8億7,200万円増益の238億8,300万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、運送費や管理費その他に含まれる人件費などのコスト増により前期比18億7,200万円増加の203億5,100万円となりました。
- この結果、営業利益は海外酒類が3億5,600万円増益となったものの、海外日本食材卸が11億8,600万円の減益となり、全体では10億円減益の35億3,200万円となりました。

Ⅰ．2020年3月期決算
および 2021年3月期業績予想

２．2021年3月期業績予想

- 2021年3月期の通期の業績予想についてご説明します。

2021年3月期　宝ホールディングス（連結）業績予想

連結損益計算書

（百万円）

	2021年3月期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	為替レート影響額 前期比
宝酒造	155,157	2,015	+1.3	―
宝酒造インターナショナルグループ	70,530	▲ 12,235	▲ 14.8	▲ 2,403
タカラバイオグループ	33,800	▲ 765	▲ 2.2	▲ 869
その他	31,716	▲ 85	▲ 0.3	―
調整額	▲ 21,203	▲ 120	―	―
売上高	270,000	▲ 11,191	▲ 4.0	▲ 3,264
売上原価	163,700	▲ 8,874	▲ 5.1	
売上総利益	106,300	▲ 2,317	▲ 2.1	
運送費	11,100	99	+0.9	
広告宣伝費	2,100	48	+2.4	
販売促進費	35,000	▲ 73	▲ 0.2	
研究開発費	5,300	1,040	+24.4	
管理費、その他	42,800	2,404	+6.0	
販売費及び一般管理費	96,300	3,518	+3.8	
宝酒造	4,285	109	+2.6	
宝酒造インターナショナルグループ	145	▲ 3,387	▲ 95.9	
タカラバイオグループ	4,500	▲ 1,774	▲ 28.3	
その他	1,968	▲ 50	▲ 2.5	
調整額	▲ 898	▲ 733	―	
営業利益	10,000	▲ 5,836	▲ 36.9	
経常利益	10,200	▲ 6,069	▲ 37.3	
親会社株主に帰属する当期純利益	5,100	▲ 3,880	▲ 43.2	

TaKaRa

12

【宝ホールディングス（連結）】

- 売上高は前期比111億9,100万円の減収となる2,700億円、
  営業利益は前期比58億3,600万円減益の100億円を計画しています。
- 新型コロナウイルスの影響を織り込んだ結果、宝酒造を除くすべてのセグメントで減収減益となり、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、減益となる計画です。

（新型コロナウイルスの影響はスライド15で説明）

2021年3月期　宝酒造　業績予想

損益計算書（売上高~営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	47,563	▲ 2,165	▲ 4.4
清酒	19,047	▲ 1,441	▲ 7.0
ソフトアルコール飲料	48,467	5,443	+12.7
その他酒類	5,825	▲ 580	▲ 9.1
本みりん	14,108	127	+0.9
その他調味料	10,566	235	+2.3
原料用アルコール等	9,581	397	+4.3
売上高	155,157	2,015	+1.3
売上原価	94,071	1,248	+1.3
売上総利益	61,086	767	+1.3
運送費	8,499	356	+4.4
広告宣伝費	1,971	88	+4.7
販売促進費	33,936	91	+0.3
研究開発費	486	103	+26.9
管理費、その他	11,909	18	+0.2
販売費及び一般管理費	56,801	658	+1.2
営業利益	4,285	109	+2.6

売上総利益増減　内訳

		前期増減	数量差	単価差
売上総利益 計		+767	+1,663	▲ 896
主な内訳	焼酎	▲ 878	▲ 788	▲ 89
	清酒	▲ 777	▲ 439	▲ 337
	ソフトアルコール飲料	+2,210	+2,244	▲ 34
	本みりん	▲ 68	+55	▲ 124
	（参考）原価コストダウン	▲ 280	※上記数量差および単価差に含む	

TaKaRa

13

【宝酒造】

- 売上高は前期比20億1,500万円増収の1,551億5,700万円、
  営業利益は前期比1億900万円増益の42億8,500万円を計画しています。
- 焼酎、清酒は減収の計画ですが、ソフトアルコール飲料を中心に売上高を拡大し、
  営業利益の計画を達成します。
- 売上総利益の増減の内訳は下の表の通りです。

2021年3月期　宝酒造インターナショナルグループ　業績予想

損益計算書（売上高~営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	為替レート影響額 前期比
海外酒類	9,957	▲ 1,408	▲ 12.4	▲ 338
海外日本食材卸	62,546	▲ 10,825	▲ 14.8	▲ 2,123
その他	68	▲ 136	▲ 66.8	―
連結消去	▲ 2,041	134	―	58
売上高	70,530	▲ 12,235	▲ 14.8	▲ 2,403
売上原価	49,244	▲ 9,638	▲ 16.4	
売上総利益	21,286	▲ 2,597	▲ 10.9	
運送費	2,347	▲ 309	▲ 11.6	
広告宣伝費	92	7	＋9.0	
販売促進費	731	▲ 25	▲ 3.3	
管理費、その他	17,971	1,116	＋6.6	
販売費及び一般管理費	21,141	789	＋3.9	
海外酒類	1,784	▲ 555	▲ 23.7	
海外日本食材卸	21	▲ 2,714	▲ 99.2	
その他	▲ 1,165	▲ 311	―	
連結消去	▲ 495	194	―	
営業利益	145	▲ 3,387	▲ 95.9	

TaKaRa　14

【宝酒造インターナショナルグループ】

- 売上高は、前期比122億3,500万円の減収となる705億3,000万円の計画です。
- 海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに、新型コロナウイルスの影響を受け、10％以上の減収を見込んでいます。

- 営業利益は前期比33億8,700万円減益の1億4,500万円を計画しています。
- 特に海外日本食材卸事業への影響が大きく、前期比で99.2%マイナスの想定です。

2021年3月期業績予想における新型コロナウイルスの影響

宝グループ連結の業績予想は新型コロナウイルス感染拡大による影響が
2020年7月頃*まで続くという前提の下で策定

<2021年3月期業績予想における影響額>

（単位：億円）

	売上高	営業利益
宝グループ計	▲ 194	▲ 64
宝酒造	1.6	0
宝酒造インターナショナルG	▲ 165	▲ 41
海外酒類事業	▲ 15	▲ 5
海外日本食材卸事業	▲ 150	▲ 35
タカラバイオG	▲ 27	▲ 23
国内グループ会社	▲ 5	▲ 0
連結修正等	2	0

TaKaRa

*会社ごと・国ごとに多少の前後あり 15

【新型コロナウイルス感染拡大による影響】

- 宝グループとしての業績予想は、新型コロナウイルス感染拡大による影響が2020年7月頃まで続くという前提のもとで策定しています。

- 記載の表は、宝グループ全体およびセグメント別の影響額を示したものです。

- 売上高は、まず国内事業の宝酒造は、業務用、外食ルートの売上が減少するものの、量販店などの家庭用ルートの売上が増加すると見ており、1億円強のプラスを想定しています。
- 海外事業の宝酒造インターナショナルグループでは、アメリカ、ヨーロッパを中心とした外出禁止令やレストランの営業規制の影響が大きく、海外酒類事業で約15億円、海外日本食材卸事業で約150億円、海外事業全体で165億円のマイナスを織り込んでいます。
- バイオ事業のタカラバイオグループについては、アメリカ、中国を中心に研究開発活動が停滞するリスクを最大限に織り込み、約27億円のマイナスを見込んでいます。なお、この予想には、5月1日に緊急発売した新型ダイレクトPCRキット、およびDNAワクチン開発プロジェクトによる収益は織り込んでいません。
- この他に、国内グループ会社などにおける影響を織り込み、宝グループ全体で約190億円程度のマイナスを想定しています。

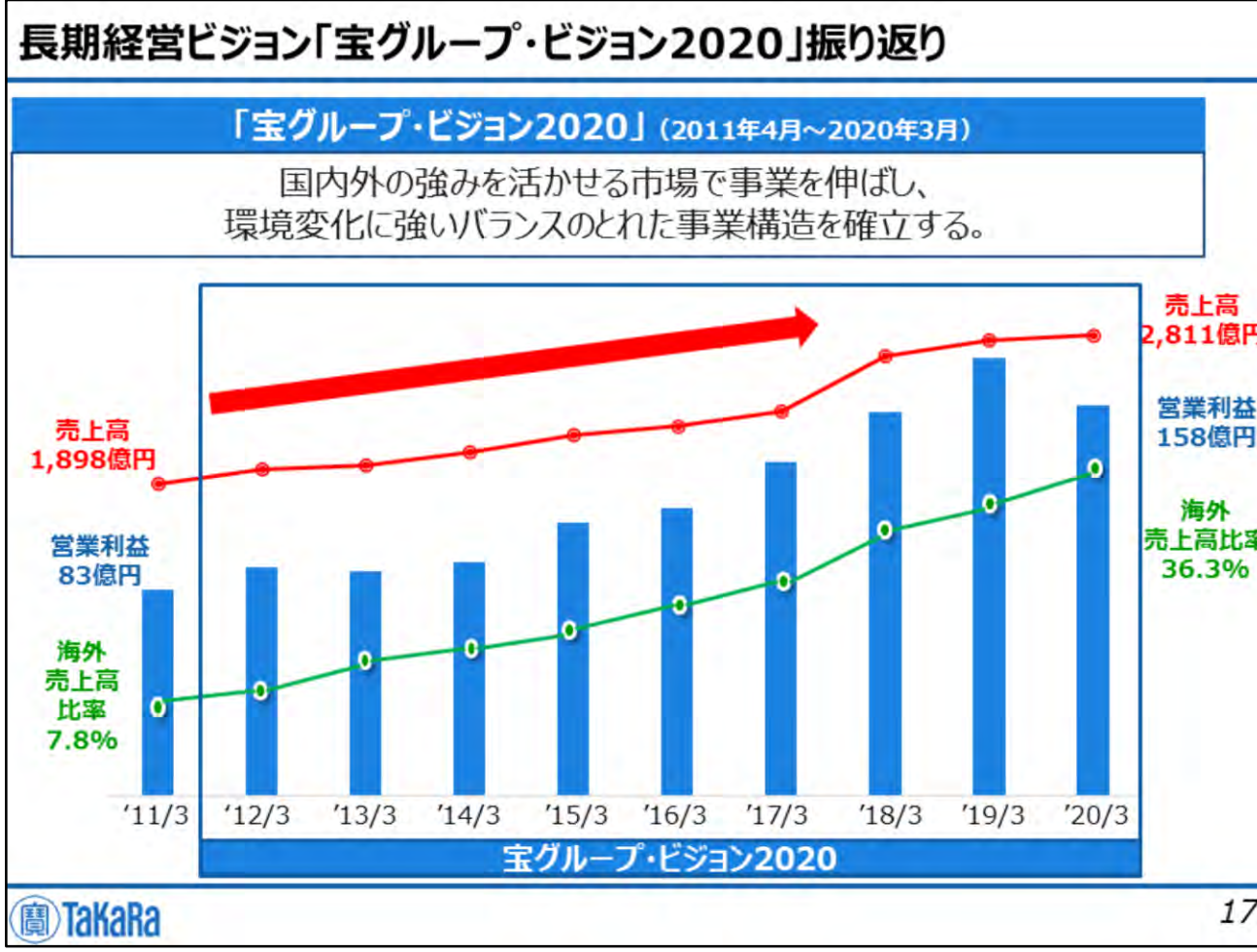
- 営業利益については、海外事業、バイオ事業での影響が大きく、宝グループ全体で約64億円のマイナスを見込んでいます。

Ⅱ．長期経営構想

１．長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」振り返り

【第Ⅱ部　発表者：代表取締役社長　木村 睦】

- 長期経営構想を中心とした経営戦略についてご説明します。



【長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」についての振り返り】

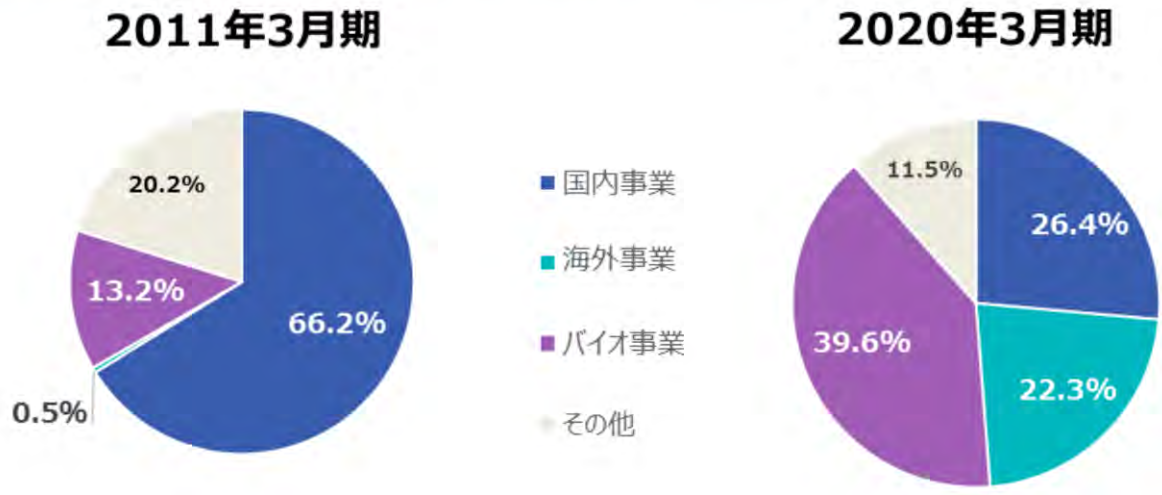
- 長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」は、
- 2011年4月から2020年3月までの長期経営ビジョンで、
- 経営目標として「国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、
- 環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する」を掲げ、
- 売上高、営業利益、海外売上高比率の向上を目指してまいりました。

- 長期経営ビジョンスタートの前年2011年3月期では、
- 売上高1,898億円、営業利益83億円、海外売上高比率7.8%であったものが、
- 2020年3月期では売上高2,811億円、営業利益158億円、海外売上高比率36.3%とこの10年で大きく伸長させることができました。

長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」振り返り

海外事業とバイオ事業を大きく伸長させ、
利益面で３事業のバランスがとれた事業構造へと進化

◆2011年3月期と2020年3月期の事業別営業利益構成比



※宝酒造インターナショナル分社化前のため一部参考値

TaKaRa 18

➢ 2011年3月期と2020年3月期の営業利益の事業別構成比です。

➢ 2011年3月期での構成比は、
国内事業が66.2％、海外事業が0.5％、バイオ事業が13.2％でしたが、
2020年3月期においては、国内事業26.4％、海外事業22.3％、バイオ事業39.6％
となり、海外事業およびバイオ事業の伸長により、利益面において経営目標に掲げておりましたバランスのとれた事業構造へと進化してまいりました。

長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」振り返り

長期経営ビジョン期間に実現できたこと

国内事業

・長期経営ビジョン前は3位であった清酒販売数量で１位を達成
・国内酒類市場縮小のなか、ソフトアルコール飲料を中心とした売上の伸長

海外事業

・世界的な日本食人気を追い風とした積極的な投資で、海外日本食材卸事業を飛躍的に拡大
・2017年7月に宝酒造インターナショナルを設立し、迅速で的確な意思決定とグローバル拠点を含めた事業基盤の整備・強化を行う体制を構築

バイオ事業

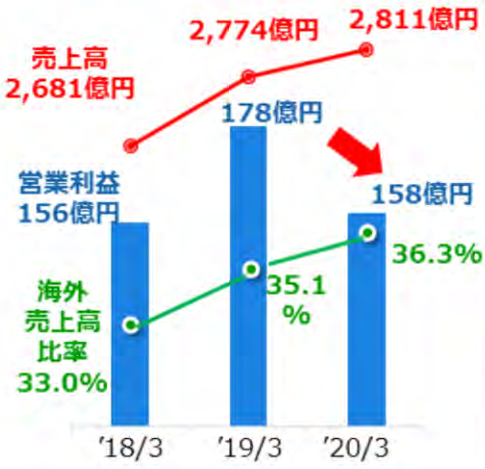
・遺伝子・細胞プロセッシングセンター稼働によるＣＤＭＯ事業の拡大
・遺伝子医療事業における収益化の実現

➢ 長期経営ビジョンの期間中に実現できたことは記載の通りです。

「宝グループ中期経営計画2019」振り返り

中期経営計画2019の定量目標に対しては、
海外売上高比率を達成するも、売上高および営業利益は未達

◆業績推移および定量目標と当期実績の比較



	中期経営計画定量目標※	2020年3月期実績
売上高	2,950億円 以上	2,811億円
営業利益	187億円 以上	158億円
海外売上高比率	35.0% 以上	36.3%

※ 2018年5月上方修正後の数値

TaKaRa 20

【「宝グループ中期経営計画2019」振り返り】

- グラフの通り、売上高と海外売上高比率は拡大できたものの、営業利益は2020年3月期に減益となりました。
- この結果、中期経営計画の目標に対しては、海外売上高比率は達成したものの、売上高、営業利益は未達となりました。

「宝グループ中期経営計画2019」振り返り

各事業での問題点および課題の方向性

	問題点	課題
国内事業	• 数量志向への偏重 • 新商品の育成遅れ • コストアップへの対策不十分	• 利益志向への転換 • 付加価値型商品の開発、育成 • コストアップへの対応強化
海外事業	• 和酒の販売は拡大するものの、市場と比べ物足りない伸び • 海外日本食材卸市場での競争激化による利益率低下 • 経営基盤や事業基盤の未整備	• シナジー等活用した和酒のさらなる拡大 • 海外日本食材卸事業全体の競争力を高める商品調達機能確立 • 内部統制、業績管理、仕入れ為替リスク対応等の管理面強化
バイオ事業	• 買収した理化学機器事業の計画未達 • 遺伝子治療薬の上市遅延	• 理化学機器事業の製造、研究開発体制の再編、販売戦略の見直し • 提携プロジェクトの着実な推進、創薬アライアンスの加速と、新規臨床プロジェクト立ち上げ

TaKaRa 21

➢ この中計期間で見えてきた各事業での問題点と今後の課題は記載の通りです。

「宝グループ中期経営計画2019」振り返り

財務方針

健全な財務体質を維持しながら、成長投資を行うとともに、適切な株主還元を実施することによってROEを向上させ、適正な株価水準を実現する。

成長投資

中期経営計画2019の3年間で、約160億円の成長投資を実施

国内事業

- 千葉県松戸工場の缶製品充填設備
- 宮崎県黒壁蔵の石蔵貯蔵庫建設

海外事業

- ミューチャルトレーディング社 物流倉庫拡張
- 東京共同貿易社 連結子会社化

バイオ事業

- 遺伝子・細胞プロセッシングセンター２号棟新設

TaKaRa

22

- 中期経営計画2019における財務方針および成長投資の結果は記載の通りです。

「宝グループ中期経営計画2019」振り返り

株主還元

配当方針に則り安定的な配当を実施するとともに、自己株式の取得等にも機動的に対応

配当方針　：　みなし配当性向＝配当総額／（連結営業利益×（１－法定実効税率））≒30%

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	3か年累計
配当総額(百万円)	3,194	3,593	3,954	10,742
みなし配当性向	29.6%	29.3%	36.2%	31.6%
自己株式取得数（千株）	1,592	－	1,925	3,517
自己株式取得総額（百万円）	2,000	－	2,000	4,000
ＲＯＥ	7.9%	7.1%	6.1%	7.0%

TaKaRa

23

- 株主還元について、本中計の3年間はみなし配当性向30%を目安とした配当を実施するとともに、自己株式の取得等にも機動的に対応しました。
- 配当および自己株式取得については、記載の通りです。

Ⅱ．長期経営構想

2．長期経営構想
「TaKaRa Group Challenge for the 100th」

- 今回策定した新長期経営構想についてご説明します。

当社を取り巻く経営環境の認識

今後の経営環境

国内事業	➢ 国内飲酒人口の減少および若年層の酒離れ ➢ 酒税法改正 ➢ 中食を中心とした調味料市場の拡大
海外事業	➢ 世界的な日本食市場の拡大 ➢ 日本産清酒のさらなる需要の高まり
バイオ事業	➢ 再生・細胞医療周辺産業およびバイオ産業の市場規模拡大
共通	➢ コストの高騰、高止まり ➢ ESGやSDGsに関する様々な社会・環境課題への対応要請の高まり

TaKaRa 25

➢ 長期経営構想を策定するうえでの、当社を取り巻く今後の経営環境については記載の通りです。

長期経営構想「TGC100」

長期経営構想
「TaKaRa Group Challenge for the 100th」（TGC100）

グループとして将来のありたい姿を定め
100周年を迎える2025年(2026年3月期)をマイルストンとした、
６年間の経営計画

◆ **Vision**

笑顔で繋がる豊かな暮らしを　～Smiles in Life～

宝グループは、おいしさを追求する技術と革新的なバイオ技術によって
和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を
安全・安心に提供し続ける企業グループとなることで
人と人の繋がりと笑顔にあふれた健康的で豊かな日々の暮らしへの貢献を目指します。

TaKaRa　26

- 環境認識や、前長経からの成果、課題を踏まえ、今回、長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」（TGC100）を策定しました。

- これは、宝グループとして将来のありたい姿を定め、
- 1925年の創立から100周年を迎える2025年をマイルストンとした、6年間の経営計画です。

- その中では、まず宝グループのありたい姿をVisionとして掲げました。
- このVisionのもと、各事業活動を展開してまいります。

長期経営構想「TGC100」

◆経営方針

技術力、商品力、ブランド力をさらに向上させ、
「和酒・日本食市場」「ライフサイエンス産業」における多様な価値を提供することで、
宝グループの国内外での存在感を高めながら、持続的な成長と飛躍を実現する。

◆定量目標

	2026年3月期
売上高	3,400億円 以上
営業利益	230億円 以上
海外売上高比率	44% 以上
ROE	8% 以上

TaKaRa

27

➢ 経営方針および定量目標は記載の通りです。

長期経営構想「TGC100」

◆事業戦略

国内事業	国内の和酒No.1メーカーのポジションを活用した付加価値経営への変革によって、着実に利益成長できる事業基盤を再構築し、企業イメージを向上させてグローバル和酒No.1企業（※1）としての根幹を支える。
海外事業	グローバルな和酒の拡大を加速させるとともに、海外日本食材卸のネットワークの拡充を進めながら、国内外でのグループシナジーをさらに発揮し、海外における和酒・日本食材No.1企業（※2）を目指す。
国内・海外共通目標	国内事業と海外事業が協業することで、一体感を持って「グローバル和酒・日本食材No.1企業（※3）」を目指す。

※1：国内＋海外（輸出＋現地生産）で和酒No.1
※2：海外（輸出＋現地生産）和酒No.1＋海外日本食材卸No.1
※3：グローバル和酒No.1＋海外日本食材卸No.1

TaKaRa 28

➢ 国内事業、海外事業、国内・海外共通の事業戦略は記載の通りです。

長期経営構想「TGC100」

◆事業戦略

バイオ事業	研究用試薬・機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティ（治療法）を創出し続ける創薬企業を目指す。
その他 （国内グループ会社）	宝グループ内における位置付けや担う役割から明確にされた各社のミッションを確実に遂行し、グループの業績と企業価値向上に貢献する。
経営基盤 （コーポレート部門）	グローバルにグループ経営をリードし、グループの企業価値と一体感を高めるためのコーポレート機能を強化するとともに、コーポレート部門の効率性を向上する。

TaKaRa 29

➢ バイオ事業、その他、経営基盤の事業戦略は記載の通りです。

長期経営構想「TGC100」

長期経営構想のVisionの実現に向け、財務面では中期経営計画に基づく事業活動、非財務面では「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」に基づく取り組みを推進する。

<「Vision」「中期経営計画」「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」の関係性>

Vision(ありたい姿)
笑顔で繋がる豊かな暮らしを ～Smiles in Life～

中期経営計画 に基づく事業活動の推進	宝グループ・サステナビリティ・ポリシー に基づく取り組みの推進
財務面	**非財務面**

TaKaRa 30

- TGC100の説明の最後に、新中期経営計画および、昨今高まる社会課題解決のための当社グループの基本方針である「宝グループサステナビリティポリシー」との関係性を示しています。
- TGC100のビジョンである「笑顔で繋がる豊かな暮らしを」の実現のために、主に財務面における中期経営計画に基づく事業活動と、非財務面では、「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」に基づく取り組み、この二つを両輪としての企業活動を推進していくことが必要であると考えています。

Ⅱ．長期経営構想

3.「宝グループ中期経営計画2022」

- 長期経営構想実現のための第１ステップである「宝グループ中期経営計画2022」について説明します。

「宝グループ中期経営計画2022」

◆基本方針

環境変化の兆しを掴みとり、強化すべき領域へ適切な経営資源の配分と投下を行い、収益力を高める多様な「価値」を生み出し続ける事業構造とグローバルなコーポレート機能の再構築を推し進めることで、国内外での持続的な成長の実現とグループの企業価値向上に向けて足元を固める。

◆定量目標

	2023年3月期
売上高	3,000億円 以上
営業利益	174億円 以上
海外売上高比率	39.0% 以上
ROE	7% 以上

TaKaRa 32

➢ 「宝グループ中期経営計画2022」の基本方針および定量目標は記載の通りです。

【国内事業】

➢ 重点戦略は以下の通りです。

① 和酒No.1企業としての強みを活かした、利益創出型の企業体質への進化
② お客様のニーズを捉え、利益の視点を高めた商品開発・育成の推進
③ お客様の需要を喚起する効率的な育成策の継続によるブランド価値の向上
④ 稼働率平準化を中心とした、全体最適視点でのコスト削減の推進
⑤ 製造委託先や海外グループ会社での品質管理体制の強化

➢ 商品カテゴリー毎のアクションプランは以下の通りです。

＜ソフトアルコール飲料＞
付加価値のある強いブランドの複数育成により、独自のポジションを確立するとともに、主力ブランドであるタカラ「焼酎ハイボール」の利益率改善に努める。

＜清酒＞
引き続きNo.1のポジションと販売力を活かし、スパークリング清酒「澪」や「澪」ブランドより発売した「一果（いちか）」、そして特定名称酒など、付加価値型商品の育成を進める。

＜焼酎＞
甲類焼酎においては寶（たから）ブランドのさらなるイメージ向上をはかるとともに、本格焼酎では、宮崎県・黒壁蔵に新設した“石蔵”の貯蔵庫を活用し、品質強化による一刻者ブランドのさらなる育成と、商品統廃合により生産の効率化を図る。

＜調味料＞
わかりやすい価値訴求を持った商品や品質や技術の強みを活かした高利益率商品の開発を進める。

【海外事業】

➢ 重点戦略は以下の通りです。

① 清酒を中心としたグローバルな和酒拡大の加速
② 海外日本食材卸網の拡充と商品調達力の強化
③ 海外日本食材卸事業と海外酒類事業のシナジーの発揮
④ 海外グループ会社の管理面の強化

➢ 事業別のアクションプランは以下の通りです。

＜海外酒類事業＞

- 国内有力商品である「澪」や海外でも人気の高い特定名称酒を中心とした清酒の輸出拡大
- 海外グループ会社と協力し、輸出専用商品含む現地ニーズに沿った新商品の開発・育成

＜海外日本食材卸事業＞

- 卸ネットワークの新規エリアへのさらなる拡充による事業規模拡大
- 海外日本食材卸事業全体の競争力向上に向けた商品開発や仕入れ機能強化
- 2020年3月にグループとなった、米国中心に食料品の輸出販売を行う東京共同貿易社を活用し、米国への商品供給機能を拡充および将来的なグループ共通の輸出拠点として活用し、さらなる共通購買の推進

「宝グループ中期経営計画2022」各事業の重点戦略

バイオ事業

① 「研究用試薬・理化学機器事業」と「CDMO事業」の持続的成長
② 創薬アライアンスの加速と臨床プロジェクトの新規創出
③ 伸長するグローバル市場での事業展開の加速

◆各事業・プロジェクトのアクションプラン

【研究用試薬事業】
開発効率向上と製造体制の強化および地域特性を考慮した「グローカル」な販売戦略構築

【理化学機器事業】
専用試薬を含めたアプリケーション開発の実施、産業・医療分野向けのPCR関連製品の拡販

【ＣＤＭＯ事業】
「遺伝子細胞プロセッシングセンター2号棟」の活用による受託サービス事業の拡大

【創薬アライアンス】
NY-ESO-1・siTCR、C-REV、CD19・CARの各プロジェクトの早期上市

【新規臨床開発プロジェクト】
CEA-GITR・CAR、CD19-JAK/STAT・CARプロジェクトの治験早期開始とあらたな複数の遺伝子治療プロジェクトの開発

<遺伝子細胞プロセッシングセンター2号棟>

TaKaRa 35

【バイオ事業】
➢ 重点戦略は、以下の通りです。
① 「研究用試薬・理化学機器事業」と「CDMO事業」の持続的成長
② 創薬アライアンスの加速と臨床プロジェクトの新規創出
③ 伸長するグローバル市場での事業展開の加速

➢ 各事業・プロジェクトのアクションプランは以下の通りです。

＜研究用試薬事業＞
- 開発効率の向上と製造体制の強化と地域特性を考慮した「グローカル」な販売戦略構築

＜理化学機器事業＞
- 専用試薬を含めたアプリケーション開発を実施
- ウイルス検査といった産業・医療分野向けのPCR関連製品の拡販への注力

＜CDMO事業＞
- 2020年1月に稼働した「遺伝子細胞プロセッシングセンター2号棟」の積極的な活用による受託サービス事業の拡大

＜創薬アライアンスおよび新規臨床開発プロジェクト＞
- 各プロジェクトの早期上市
- 治験の早期開始とあらたな複数の遺伝子治療プロジェクトの開発

「宝グループ中期経営計画2022」

財務方針

- 健全な財務体質の維持をベースに、投資効率の向上を意識した成長投資を行うとともに、収益性や効率性を改善し、ROEの向上をはかる。
- 持続的な利益成長を踏まえた適切な株主還元を実施する。

ＲＯＥ向上施策

- 運転資本回転率の向上による営業ＣＦ増加
- 政策保有株式の機動的な売却
- 積極的な成長投資による利益向上

株主還元方針

持続的な利益成長に合わせて、配当性向で30%台後半となる安定的な配当を継続。加えて、機動的な自己株式取得の実施

21年3月期（予想）1株あたり配当20円
配当性向：77.5%

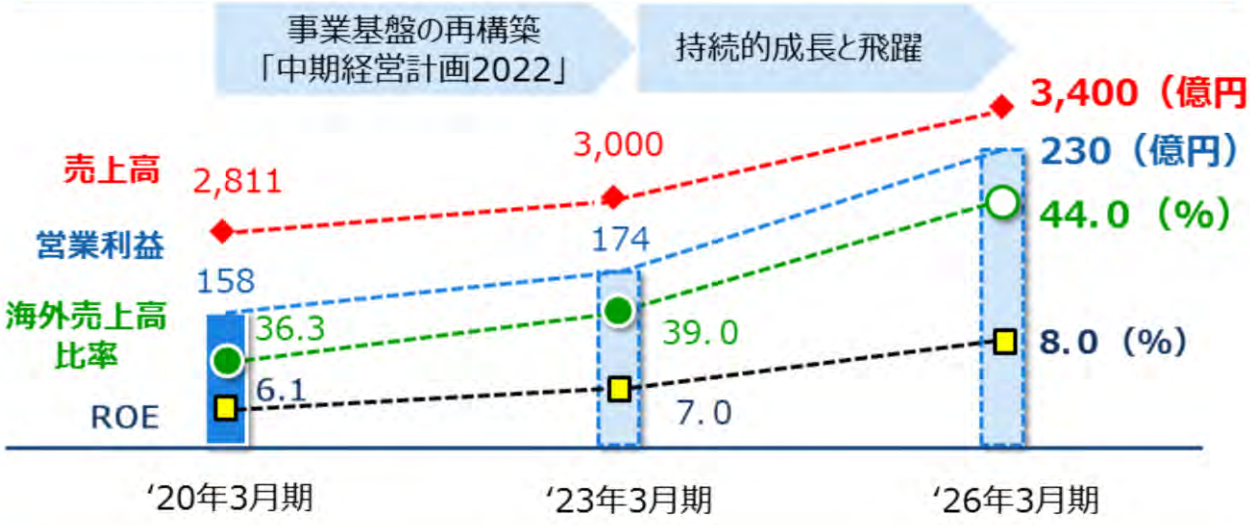
TaKaRa 36

- 財務方針は記載の通りです。

長期経営構想「TGC100」最終年度に向けて

笑顔で繋がる豊かな暮らしを ～Smiles in Life～

宝グループは、おいしさを追求する技術と革新的なバイオ技術によって、
和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を
安全・安心に提供し続ける企業グループとなることで、
人と人の繋がりと笑顔にあふれた健康的で豊かな日々の暮らしへの貢献を目指します。



TaKaRa 37

- 前長期経営ビジョンでは、事業規模を拡大することができ、海外事業、バイオ事業を伸張させることで、バランスのとれた事業構造に進化することができました。
- しかし一方で、最終年度に失速し、安定した成長を実現する事業基盤の構築には至っていないということも明確になりました。

- 今回、TGC100では、「笑顔で繋がる豊かな暮らしを　-Smiles in Life-」というビジョンのもと6年間での定量目標を掲げており、
- その第一段階である「中期経営計画2022」は、事業基盤の再構築のための３年間だと考えています。
- 次の中計での持続的成長と飛躍につなげるため、まずは着実に事業の足元を固めます。

- そして、TGC100に掲げた定量目標を達成いたします。

Ⅱ．長期経営構想

4．「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」

- 本長経と合わせて策定しました非財務面の取り組み方針である「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」についてご説明します。

「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」概要

◆基本的な考え方（一部抜粋）

近年、当社グループを取り巻く社会環境は急速に変化し、気候変動、生物多様性保全、資源保全、人権尊重といった多様な課題への対応が世界的規模で求められており、持続可能な社会づくりに向けた企業の責任はますます大きくなっています。

当社グループは、長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」のなかで、人と人の繋がりと、笑顔にあふれた健康的で豊かな日々の暮らしの実現に貢献することを宣言しています。事業活動を通じた社会的価値の創造を将来にわたって実現し続けていくためには、様々な社会課題の解決にこれまで以上に取り組む必要があるという認識のもと、今般、長期経営構想に合わせ「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」を策定しました。

「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」では、当社グループを取り巻く社会課題について、ステークホルダーからの期待度と当社グループの事業への影響度を考慮し、「安全・安心」をはじめとする１０の重要課題（マテリアリティ）を取り上げ、各々についての取り組み方針を示しています。

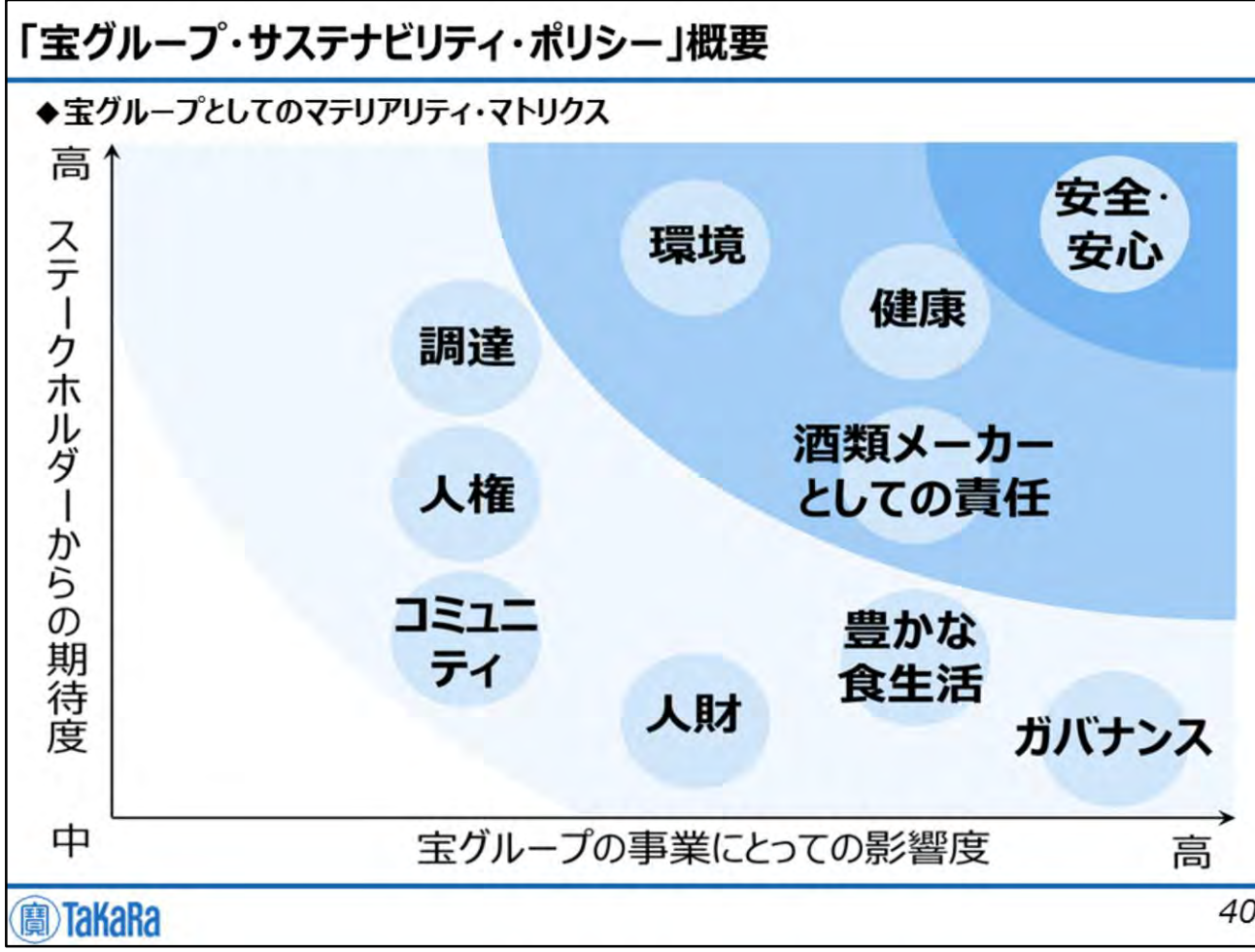
今後、これらの方針に基づいて取り組みをさらに進めるとともに、長期の目標策定にも取り組んでまいります。

TaKaRa 39

- 今回定めた「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」における基本的な考え方の一部を記載しています。

- 昨今、さまざまな社会課題への対応が世界規模で求められており、
- 持続可能な社会づくりに対して、企業の責任はますます大きくなっています。
- また長期経営構想の中で、人と人の繋がりと、笑顔にあふれた健康的で豊かな日々の暮らしの実現に貢献することを宣言しており、
- その実現のためにさまざまな社会課題の解決にとりくむ必要があるという認識のもと、今回の長期経営構想に合わせ「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」を策定しました。

- 赤字部分で当ポリシーの位置づけを示していますが、
- 当ポリシーでは、当社グループを取り巻く社会課題について、ステークホルダーからの期待度と当社グループの事業への影響度を考慮し、
- １０の重要課題（マテリアリティ）を取り上げ、それぞれについての取り組み方針を示しています。



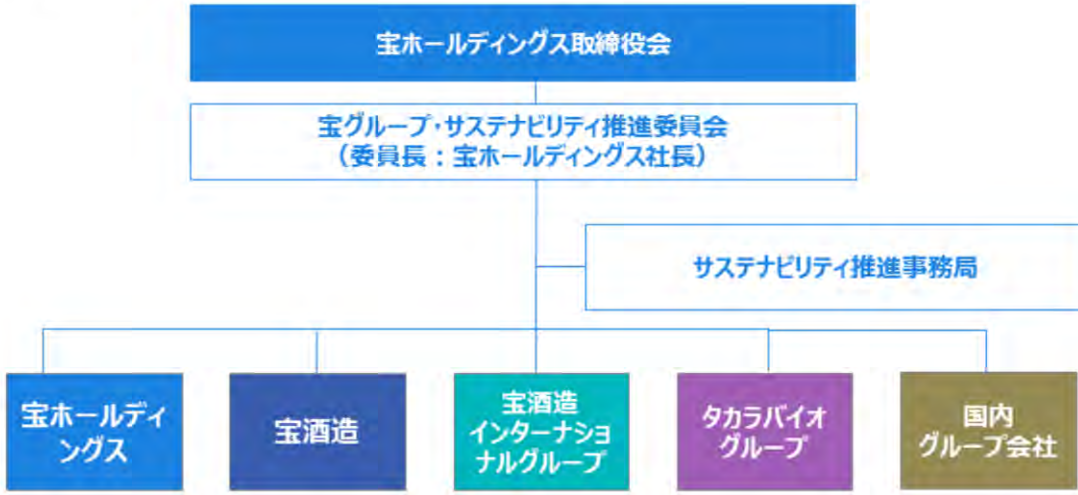
- マテリアリティマトリクスです。
- マテリアリティを宝グループの事業にとっての影響度とステークホルダーからの期待度を考慮してプロットしました。
- 宝グループの影響度、そしてステークホルダーからの期待度が最も高い、右上の「安全・安心」をはじめとした１０のマテリアリティに対し、取り組みテーマおよび活動計画を設定し、それぞれに応じた社会課題に対応していきます。

推進体制

◆推進体制

代表取締役社長を委員長とした宝グループ・サステナビリティ推進委員会を設置し、各種の取り組みを進める。

＜委員会の構成＞



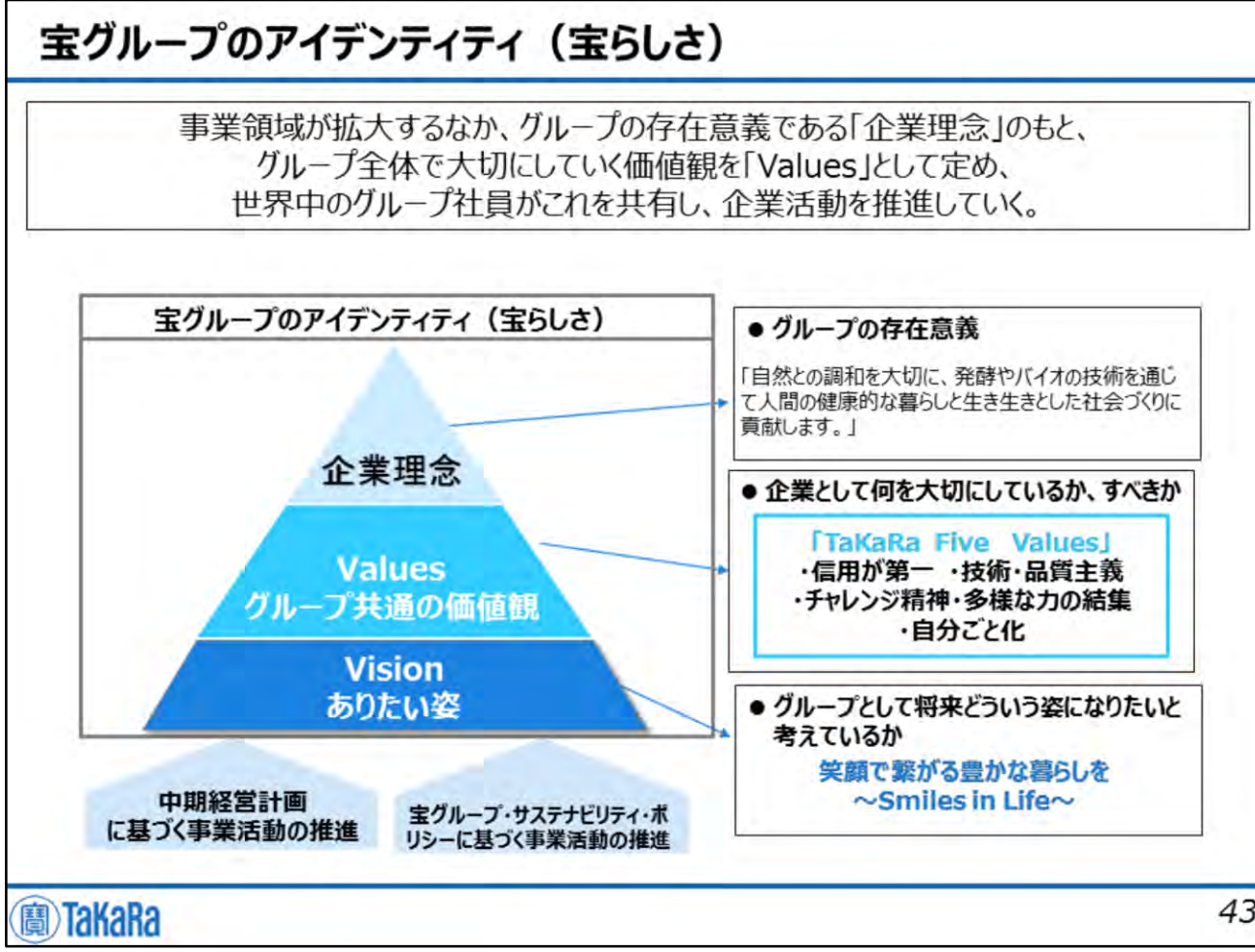
- 宝グループ・サステナビリティ・ポリシーの推進体制です。

- 今回、このポリシー策定に合わせ、代表取締役社長を委員長とした宝グループ・サステナビリティ推進委員会を設置しました。
- これら推進委員会を中心として、全グループと議論の場を設け、各種の取り組みを計画的に進めます。

Ⅱ．長期経営構想

5．最後に

- 長期経営構想の最後に宝グループのアイデンティティについて説明します。



- 当社グループでは、前長期経営ビジョン期間において、事業ポートフォリオおよび国内外の地理的ポートフォリオが大きく変化しました。
- スライド１８で示したように、営業利益では３事業バランスのとれた事業ポートフォリオになりました。
- また海外売上高比率も３６％となり、当社グループのなかで、海外で働く従業員数も全従業員の約半数を占めることになりました。

- 国内外で事業領域が拡大する中で、まず「企業理念」をグループの存在意義として再認識し、そして企業理念をベースとし、目まぐるしい変化の時代に企業として何を大切にしているか、そして何を大切にすべきか、ということを全世界のグループ社員が認識できるよう、Values(「グループ共通の価値観」)として新たに定義しました。

- そしてそれらをもとにして、
- 今回の長期経営構想のVision、つまりグループとして将来どういう姿になりたいと考えているかということを策定しました。

- この企業理念、Values、Visionを「宝グループのアイデンティティ」として位置づけ、世界中のグループ社員で共有し、今後も企業活動を推進してまいります。

新型コロナウイルス感染症に関する対応方針と取り組みについて

- プレゼンテーションの最後に、新型コロナウイルス感染症に関する対応方針と取り組みについてご説明します。

- 新型コロナ感染症に罹患された皆様および感染の拡大により生活に影響を受けておられる皆様に心よりお見舞いを申し上げます。そして、各国・地域で昼夜を問わずこの対策に取り組んでおられる医療関係従事者やライフラインを支えて下さっている関係者の皆様に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

１．新型コロナウイルス感染症に関する宝グループの対応方針

- この緊急事態を乗り越えるために、従業員とその家族ならびに宝グループの事業活動を支えてくださるステークホルダーの安全と健康を最優先します。
- 感染予防策に万全を期したうえで、食と健康に必要な製品・商品・サービスを各国・地域の方針に従い、お客様にお届けする責任を果たしていきます。

２．感染拡大防止への対応

- 国内外の従業員とその家族の安全と健康を守ることを最優先に、感染予防策を徹底し、安全な環境を整備したうえで、事業活動の維持・継続に必要な担当者などを除いて、原則として在宅勤務や時差出勤を実施するなどの対策を講じています。

３．社会要請への対応

- 手指消毒用エタノールの供給（宝酒造）
- ＰＣＲ検査用試薬をはじめとした研究用試薬類の供給（タカラバイオ）
- 予防用ＤＮＡワクチン開発に協力（タカラバイオ）

45

➢ 当社グループの対応につきましては、記載の通りです。

４．トップメッセージ（代表取締役社長 木村 睦）

新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大するなか、未だに収束の目途が立たず先行きが不透明な状況下にあります。直近では経済活動再開の動きがあり、また、有効な治療法の確立に向けた取り組みも進められてはいるものの、感染拡大防止に向けた対応は長期化することが懸念されます。
この未曾有の事態に際し、当社グループは、グローバルに働く従業員およびその家族をはじめ、お客様、お得意先・お取引先など、すべてのステークホルダーの皆様の安全と健康を最優先に考え、感染拡大防止に向けた取り組みを実施しています。
また、従業員を大切にするという当社グループとしての考えに基づき、可能な限りの従業員支援をグループ全体で行っていきます。
新型コロナウィルスの感染が収束した後の社会では多くの変化が起こると予想され、様々な社会課題と向き合わなければなりません。宝グループが掲げる「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」という企業理念に基づいた事業活動のよりいっそうの実践が、社会から求められていくものと考えます。
宝グループの持てる技術を結集し、すべてのステークホルダーの皆様と協力することで、この危機的な状況を乗り越えられるよう、企業としての責任を果たしてまいります。

46

- 新型コロナウィルスの感染の収束に向けて、また収束した後の社会においても、宝グループの技術を結集し、ステークホルダーの皆様と協力し、この危機的な状況を乗り越えられるよう、企業としての責任を果たしてまいります。

【以上】

将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ先＞
宝ホールディングス株式会社
財務・ＩＲ部
E-Mail ir@takara.co.jp
TEL 075-241-5124